

平成 23 年 1 月 20 日 (木)

大豊建設は、同社JVが施工している小名木川作業所（東京都江東区）に中学2年生を職場体験実習として受け入れた。当初は4人が参加する予定だったが、病気のため1人が欠席、初日は3人での実習となった。中学生は19、20の両日にわたって建設現場で実習し、将来の進路を決める材料に生かすとともに、社会のルールやマナーを学ぶ。

実習の場となったのは東京都が発注し、大豊建設・成和リニューアルワークスJVが

中学生が河川整備現場で実習



土木体験 進路に生かして

大豊建設が受け入れ

鋼矢板圧入工など見学

施工する「小名木川低水路整備工事（その12）」。高潮や地震などによる水害を防ぐため、長さ203mにわたって河川整備を進めている。

実習を受けたのは江東区立大島西中学校2年生。冒頭、稲田智大豊建設東京支店総務部長は「土木工事に対する社会のイメージが決して良くない中で、現場を選んでくれたことを喜んでいる。少しでも土木工事に関心を持つきっかけ

になればうれしい」とあいさつした。大豊建設の紹介に続いて、田中秀弥所長が工事の概要を紹介し、「基本的には船を使って作業している点

が特徴」と説明した。DVDで土木工事の全体像をつかんだ生徒たちは早速、船舶に乗り込み、工事の状況説明や鋼矢板圧入工などを見学した。写真。午後からは品質管理として鋼矢板の溶接などを学んだ。2日目の20日には不正軽油確認などの品質管理、搬入材料の受入検査、測量実習などを行う。

平成23年1月20日(木)

船上から現場を視察

〓小名木川作業所〓

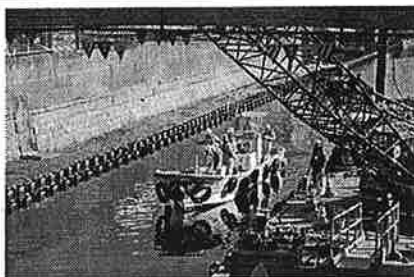
職場体験実習生受け入れ

大豊建設

大豊建設東京支店小名木川作業所(大豊・成和リニューアルJV)は、江東区立大島西中学校の2年生3人を職場体験実習生として受け入れた。この体験実習は2日間のスケジュールで行われるもので、初日の19日午前9時、作業所詰所で3人を東京支店の稲田智絵

大豊建設東京支店小名木川作業所(大豊・成和リニューアルJV)は、江東区立大島西中学校の2年生3人を職場体験実習生として受け入れた。この体験実習は2日間のスケジュールで行われるもので、初日の19日午前9時、作業所詰所で3人を東京支店の稲田智絵

は「満州の電力不足を解消するため建設された大豊満タム。戦後、ここで活躍した技術者が日本に帰還して興した会社が大豊建設のルーツ。社名の大豊も大豊満タムから由



来しています」と説明。ニューケーソン工法や、泥土加圧シールド工法などの優れた技術を駆使し、活躍の場は国内だけでなく、広く海外にも及ぶことを紹介。

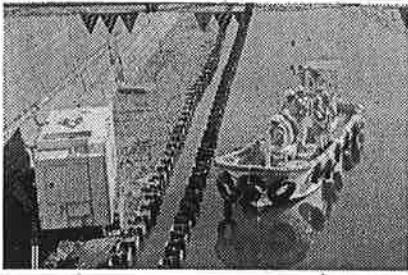
また、「土木の現場を選んでくれてありがとう。皆さんの中で将来、自分も土木技術者になりたいと思ってもらえれば大変うれしい」と話していた。

その後、実習生は、作業服に着替え、船舶に乗船し、小名木川工区の施工状況を視察した。写真。職場体験実習は、職場体験を通して働く喜びや苦労を体験し、職業について興味や関心を深めることで、生徒一人ひとりの将来の進路について考えさせることなどが目的。

工場場所は、明治通りの小名木川進開橋を挟んだ上下流に位置し、大島西中学校とは隣り合わせ。生徒たちにとっても身近なところで職場体験ができる格好の場所。中学校からの受け入れ要請を快く受け入れた。

工場場所は、明治通りの小名木川進開橋を挟んだ上下流に位置し、大島西中学校とは隣り合わせ。生徒たちにとっても身近なところで職場体験ができる格好の場所。中学校からの受け入れ要請を快く受け入れた。

平成 23 年 1 月 20 日 (木)



大豊建設は、東京都内
土木現場で中学生
職場体験受け入れ
大豊建設・成和
リニューアルJV

で施工中の土木現場で中学生による職場体験実習を受け入れている。社会人と触れあうことを通じて、将来の進路を考える機会を得たいと、学校側の要請に応じて実現した。同社では「職場体験を通じて、土木の事を少しでも理解してもらいたい。将来土木技術者を目指す生徒が出てくれば、うれしい。」(東京支店)と期待している。

19、20日の日程で職場体験実習生を受け入れているのは、成和リニューアルワークスとのJVで施工中の「小名木川低水路整備工事(その12)」(東京都江東治水事務所発注、北砂2丁目地内、大島4丁目地内)。現場に隣接する区立大島中学校から、2年生の3人が参加している。

19日朝、緊張した面持ちで現場詰所に集まった3人は、現場を取り仕切る田中秀弥所長らから、会社や土木のこと、また、今回体験する工事の概要などを聞いた上で、用意された船に乗り込んで現場を見学し写真。

高潮などからの被害を防ぐ目的で行われる掘削、捨て石撤去、土砂埋め戻し、地盤改良、鋼矢板圧入や溶接、品質管理などの作業が行われる現場で、担当者の説明を聞きながら、どのような工程で工事が進んでいるかを学んだ。20日も引き続き現場見学のほか、測量実習などが予定されている。